

ボディ&ウインド対策

冬対策1

雪道をドライブする際は、特にボディとウインドに対する事前の準備が大切。怠ると安全運転ができなくなるばかりか、クルマの寿命を縮めることにもなりかねない。雪が降る機会が少ない地域でも、冬特有の静電気対策をしておけば快適なカーライフを過ごせる。

ツーフット
ラストストッパー
(46-4202 / 軽自動車・リッターカー専用)

ラストストッパー
(46-4200 / レギュラータイプ)

ラストストッパー
(46-4201 / ヘビーデューティータイプ)

☎ツーフット ☎045-253-7945

バッテリーからの電子を断続的にボディに送ることにより、サビによる腐食を防止するアイテム。一般的な環境ではレギュラータイプ、潮風が吹く海岸沿いや雪が多い地域で使うのなら、ヘビーデューティータイプがおすすめ

サビ防止装置

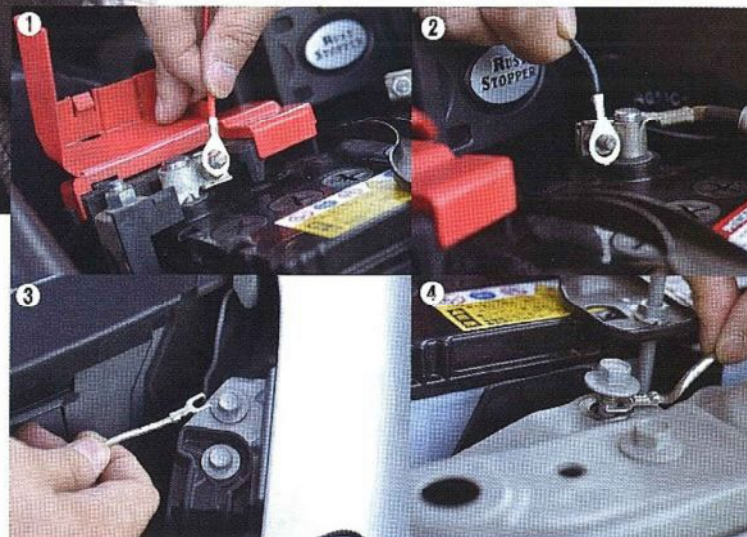
降雪地域を運転する機会が多いと、融雪剤に含まれる塩分がサビを進行させてしまうことがある。また、雪国や山間部では、冬季はほとんど洗車機が稼働していないことが多く、凍結を考えて自宅洗車も控えることから防錆対策を行っておく必要がある。

運転前は雪や氷を落とし 運転後は洗車を欠かさずに
冬は氷点下を下回る外気温のほか、附着する雪や氷が外装に襲いかかる。一晩駐車しておく朝にはクルマのボディやウインドに雪が積もることもある。できるだけ早く、ブラシや解氷剤を使って丁寧に落とす。雪が落ちてほかのクルマの迷惑となるなど、視界が悪くなり危険だ。あらかじめワイパーブレードをスノータイプに交換しておけば、降

雪時に拭きとり性能が落ちずに済む。フロントピラーに雪が溜まりにくくなる雪落としテープといったアイデアグッズを活用してもいいだろう。冬に多発する静電気を防ぐグッズを用意しておくと、電気ショックの心配も解消できる。スノードライブの後で多量の塩分を含む融雪剤を附着したままにしておくと、サビの原因となってしまう。雪道走行後は下回りを中心に洗車して融雪剤を落とそう。サビ防止装置を導入したり、ボディコーティングを施したりするのも効果的だ。

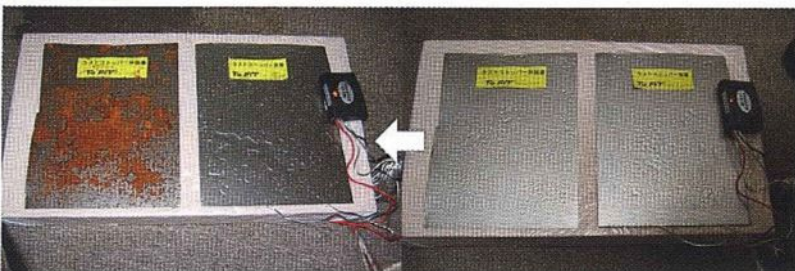


●装着方法



①赤色のケーブルをバッテリーのプラス端子に繋げる。②黒色のケーブルをマイナス端子に繋げる。③④透明のケーブル2本をボディの金属部分に繋げる。最後に本体を面ファスナーで、ケーブルをタイラップで車体に固定する

●検証テスト



同じ鉄板を用意して、右側にはラストストッパーを装着。3時間ごとに、2枚の鉄板に同じ量の水を全体的にスプレーする。48時間後には、未装着の鉄板には赤いサビが発生したが、装着した鉄板には変化はない(メーカーによる検証データ)

●ロードサービスの一例

JAF: 入会金 2000 円、年会費 4000 円。レッカーサービス (15km まで)、バッテリージャンピング、タイヤ交換作業などが無料

JRS: 年会費 1800 円。レッカーサービス (15km まで)、鍵開け、バッテリージャンピング、給油作業、タイヤ交換作業などが無料

クレジットカード「エネオカードC」に付帯: 年会費 1350 円。レッカーサービス (10km まで)、鍵開け、タイヤ交換作業などが無料

ソニー損保の自動車保険に付帯: 年会費は保険料に含む。レッカーサービス (距離は無制限)、タイヤ交換作業などが無料

日常的な点検を欠かさず、いても、天候や道路状況などにより運転中に急にトラブルが発生することはあり得る。万が一に備えてロードサービス会社と契約しておけば、トラブルが起こっても慌てることがない。ロードサービス会社は年会費だけでなく、レッカーサービスが無料になる距離、細かいサービスの内容などをよく比べて、自分に適したものを選ぶ。

冬対策 コラム1

念のため
ロードサービスに
入っておこう

年会費やサービス内容をよく吟味して選択しよう

JAFのデータによると、ロードサービスの依頼内容はバッテリー上がりが約40%と最も多く、次いでタイヤのパンクが約10%、落輪が約8%、キー閉じ込みが約7%という順になっている。